



事務局 公益財団法人がん研究会 がん研究所  
〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31  
Tel:03-3570-0542 Fax:03-3570-0546

July, 2025

uiccjapan@jfc.or.jp

## ごあいさつ

UICC日本委員会委員長

野田 哲生



この度、UICC日本委員会ニュースレターNo.30を発行することとなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

これまで連日のようにニュースを賑わせてきた新型コロナウイルス感染症の話題も、最近ではすっかり影を潜め、街中に目を向けますと、かつては当たり前の光景であったマスク姿の人は、今では数えるほどになりました。日常が戻りつつあるようにも見えますが、医療現場などでは変異株に警戒しながらも新興感染症への対応、医療DXの推進など、重要かつ困難な課題への取り組みを進めております。

UICCH本委員会もこういった状況下での活動となりましたが、多くの方々からのご支援・ご協力を頂きながら活動を行って参りました。

その中でも当委員会に於ける一大イベントでもあります毎年2月4日のワールドキャンサーデーイベントです

が、今年2025年の2月4日(火)はライトアップイベントやライブセッションを開催致しました。

今年にはUICC本部が定めた3年間のキャンペーン「United by Unique」の最初の年(1年目)となります。UICCH本委員会は、2009年からほぼ毎年に亘って、この記念日に合わせてシンポジウムやライトアップイベント等を開催して参りました。今年も当会の吉田富三記念講堂を本部(配信基地局)とし、ゲストに俳優・秋野暢子さんをお招きして、オンライン配信によるライトアップ点灯式「ライトアップ ザ ワールド -未来にひかりをつなぐ」を開催、その後にライブセッション(日本委員会主催セッション)、オンデマンド配信によるワールドキャンサーデーセッション(メンバー組織主催セッション7テーマ)を実施致しました。

ライトアップ実施にあたりましては、本委員会メン

バー組織や有志の皆様からご協力頂き、今年も全国で計16か所の施設ライトアップを実現することができました。

また、点灯式後のライブセッション「10年後のがん医療を知る!」では、10年後のがん医療はどのような変貌を遂げ、どのように我々をがんから救ってくれるのか、がん医療の各分野（内科、外科、放射線治療）を代表する先生方による講演とディスカッションが行われ、とても有意義なセッションとなりました。

本イベント開催に向けましては、特設サイト（URL <https://worldcancerday-jp.org/>）をベースにキャンペーンを展開し、YouTube動画による点灯式とライブセッションの配信、オンデマンドによるワールドキャン

サーデーセッションの公開を行うなど、盛りだくさんのコンテンツを多くの人々に視聴して頂ける環境を整備しました。

これらライトアップイベントの模様やワールドキャンサーデーセッション等は、特設サイトから現在もご覧頂けますので、是非、皆様アクセスしてみてください。

今回のワールドキャンサーデーイベントも無事にライトアップ点灯式並びにワールドキャンサーデーセッションの公開を行うことができました。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜物と心より御礼申し上げます。引き続き、当委員会へのご支援とご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



挨拶 .....	野田 哲生	1
ワールドキャンサーデー .....		3
ライトアップ ザ ワールド .....		4
ワールドキャンサーデーオンデマンド配信セッション .....		7
事前告知 .....		9
報道・掲載 .....		10
ワールドキャンサーデー2025に寄せて .....	栃木県立がんセンター 尾島 英知	11
UICCワールドキャンサーデー2025に参加して .....	埼玉県立がんセンター 神田 浩明	12
UICCワールドキャンサーデー 2025ライトアップイベントに参加して .....	新潟県立がんセンター新潟病院 田中 洋史	13
UICCワールドキャンサーデー 2025 記念点灯式 ～岐阜市より～ .....	岐阜大学医学部附属病院 宮崎 龍彦	14
UICCワールドキャンサーデー2025に参加して .....	愛知県がんセンター 丹羽 康正	15
World Cancer Day に参加して .....	佐々木研究所 梶村 春彦	16
医療格差は正とウェルビーイング推進の新たな一歩へ ...アジアがんフォーラム .....	河原ノリエ	17
ワールドキャンサーデーに参加して .....	飛騨・高山観光コンベンション協会 高原 透	18
World Cancer Congress参加報告 .....	アジアがんフォーラム 坂野 哲平	19
UICC 日本委員会 加盟組織・役員 .....		20

# ワールドキャンサーデー

## 2025年2月4日(火) オンライン開催

YouTubeにてライブ配信

ライトアップザワールド 17:30~18:15 <https://worldcancerday-jp.org>



ゲスト: 秋野 暢子 さん

国際対がん連合(略称UICC)日本委員会では、2025年2月4日(火)ワールドキャンサーデーに、全国各地のライトアップ会場と繋げ、ライトアップイベントをオンラインにて開催します。ワールドキャンサーデーは、毎年2月4日にひとりひとりが、がんに関する意識を高め、知識を増やし、この病気に対して行動を起こすことを目的として、世界が一体となって各地でさまざまな取り組みを行う日です。世界各地をライトアップするUICCのイベントである「Light Up the world」と連動して、全国各地のライトアップ会場にて、点灯合図にあわせてUICCカラーの「ブルー」「オレンジ」へとライトアップを行います。ライトアップの様子はオンラインにて配信。共有しあい、思いを一つにし、日本ががんに立ち向かう決意を、日本・世界に発信いたします。2025年から3年間のワールドキャンサーデーのテーマは、“United by Unique”です。



### ライブセッション 「10年後のがん医療を知る!」

ライトアップ点灯式に引き続き、同じサイト内でライブセッションを行います。

近年、がん治療においては、抗体医薬をはじめとする数多くの新薬が開発されており、さらに、現在も、免疫細胞治療など新たなコンセプト治療法の開発が行われています。こうした新たな治療法の登場もあって、がん治療の進展には目覚ましいものがあります。では、10年後には、がん医療はどのような変貌を遂げ、どのように我々をがんから救ってくれるのかを、がん医療の各分野を代表する研究者の方々に教えて頂きます。



野田 哲生 UICC日本委員会委員長 (がん研究会がん研究所所長) (国立がん研究センター理事) 中釜 斉 UICC日本委員会幹事 (日本対がん協会会長) (東京大学東洋文化研究所特任准教授) 垣添 忠生 UICC日本委員会幹事 (日本対がん協会会長) (東京大学東洋文化研究所特任准教授) 河原ノリエ UICC日本委員会広報委員長 (がん研究会がん研究所所長) (国立がん研究センター理事)

司会 吉野孝之 (日本癌治療学会) 佐野 武 (がん研有明病院) 講演 湯田淳一郎 (国立がん研究センター東病院 血液内科) 渡邊 雅之 (がん研有明病院 消化器外科) 若月 優 (量子科学技術研究開発機構 QST病院)

### ライトアップ点灯式 ー未来に光を繋ぐー

日本各地でライトアップの点灯式をおこない、日本国内のみならず世界にむけて、がんに立ち向かう想いを発信します。



主催 UICC日本委員会 [www.jfcr.or.jp/UICC](http://www.jfcr.or.jp/UICC)

協賛 ITMS株式会社、エグザクトサイエンス株式会社、株式会社ファルコバイオシステムズ

# ワールド キャンサー デー

## ライトアップザワールド —未来に光を繋ぐ—

開催日時：2025年2月4日(火)

ゲスト：秋野 暢子 (女優)

出席者：野田 哲生 (UICC日本委員会委員長・がん研究会がん研究所所長)  
 中釜 斉 (UICC日本委員会幹事・国立がん研究センター理事長)  
 垣添 忠生 (UICC日本委員会幹事・日本対がん協会会長)  
 河原ノリエ (UICC日本委員会広報委員長・東京大学東洋文化研究所特任准教授)

### プログラム

#### 第一部：ライトアップ点灯式

(17:30-18:15)

- ① オープニング、ビデオメッセージ
- ② ライトアップ点灯式
- ③ ゲストとのトークセッション
- ④ クロージング

### ご挨拶・要旨説明



野田 哲生  
・UICC日本委員会委員長  
・がん研究会がん研究所所長



中釜 斉  
・UICC日本委員会幹事  
・国立がん研究センター理事長



垣添 忠生  
・UICC日本委員会幹事  
・日本対がん協会会長



河原ノリエ (司会進行)  
・UICC日本委員会広報委員長  
・東京大学大学院総合文化研究科特任准教授

### ビデオメッセージ



埼玉県立がんセンター 病院長 影山 幸雄 先生



新潟県立がんセンター 院長 田中 洋史 先生



岐阜大学 岐阜大学長 吉田 和弘 様



愛知がんセンター 総長 丹羽 康正 先生



がん・感染症センター 都立駒込病院 院長補佐 下山 達 先生



がん研有明病院 病院長 佐野 武 先生



日本癌学会 理事長 間野 博行 先生



日本癌治療学会 理事長 吉野 孝之 先生

ライトアップ点灯式 全国 16 会場で一斉にライトアップ点灯



点灯式ゲスト：秋野 暢子 さん



- ・岐阜市役所【岐阜大学】
- ・高山市・中橋【岐阜大学・高山市】
- ・名古屋城【愛知県がんセンター】
- ・大船観音寺【神奈川県立がんセンター】
- ・仙台スカイキャンドル【宮城県立がんセンター】
- ・佐々木研究所【(公財) 佐々木研究所】
- ・新潟日報メディアシップ
- ・新潟県立がんセンター新潟病院
- ・栃木県庁昭和館
- ・【栃木県立がんセンター、栃木県】
- ・博多ポータータワー【九州がんセンター、福岡市】
- ・さいっぽるテレビ塔
- ・【東札幌病院、ピンクリボン in SAPPORO】
- ・世界遺産 相倉合掌造り集落
- ・【(一社)アジアがんフォーラム、(公財)がん研究振興財団、富山大学】
- ・法相宗大本山薬師寺
- ・埼玉県立がんセンター【埼玉県立がんセンター】
- ・埼玉スタジアム2002【埼玉県立がんセンター】
- ・埼玉県立小児医療センター
- ・埼玉県立がんセンター

### トークセッション



秋野 暢子 さん (ゲスト)



野田 哲生  
・UICC日本委員会委員長  
・がん研究会がん研究所所長



詳細はこちらから  
<https://worldcancerday-jp.org/>

第二部：ライブセッション (18:45-19:40)

「10年後のがん医療を知る!」



野田 哲生  
・UICC日本委員会委員長  
・がん研究会がん研究所長



コメンテーター



吉野 孝之  
・日本癌治療学会理事長  
・国立がん研究センター  
東病院副院長



佐野 武  
・UICC日本委員会  
TNM委員長  
・がん研有明病院病院長

講演① 10年後のがん医療  
～ 薬物治療～



湯田 淳一郎  
・国立がん研究センター  
東病院 血液内科 医長



講演② 10年後のがん医療  
～ 外科治療～



渡邊 雅之  
・がん研有明病院  
消化器外科 副院長



講演③ 10年後のがん医療  
～ 放射線治療～



若月 優  
・量子科学技術研究開発機構  
QST病院 副院長



# ワールド キャンサー デー オンデマンド配信セッション



愛知県がんセンター  
愛知県がんセンター 乳腺科部のご紹介

登壇者：  
原文 堅(乳腺科部・部長)



愛知県がんセンター  
愛知県がんセンターの就労専門相談

登壇者：  
野崎 由美子(愛知県がんセンター 地域医療連携・相談支援センター)



愛知県がんセンター  
総長あいさつ

登壇者：  
丹羽 康正(愛知県がんセンター 総長)



埼玉県立がんセンター  
対談：五木田茶舞×塚本泰史  
「がんを乗り越える運動の力」  
(AYAがんエクササイズWG監修)

登壇者：  
五木田 茶舞(埼玉県立がんセンター整形外科・科長)  
塚本 泰史(元プロサッカー選手)



詳細はこちらから

[https://worldcancerday-jp.org/page\\_session\\_2025.html](https://worldcancerday-jp.org/page_session_2025.html)



詳細はこちらから

[https://worldcancerday-jp.org/page\\_session\\_mnbr\\_2025.html](https://worldcancerday-jp.org/page_session_mnbr_2025.html)



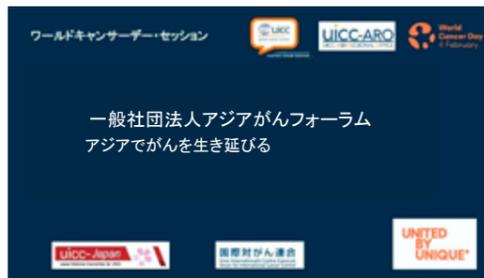
### 岐阜大学医学部附属病院 がん遺伝子パネル検査の現状と取り組み

登壇者：  
牧山 明資(岐阜大学医学部附属病院がんセンター 副センター長)



### がん研有明病院 対談：高野利実×永田美香 「がんと運動の新常識」 (AYAがんエクササイズWG監修)

登壇者：  
高野 利実(がん研有明病院 院長補佐・乳腺内科部長)  
永田 美香(アスレチックトレーナー)



### 一般社団法人アジアがんフォーラム アジアでがんを生き延びる

登壇者：  
河原 ノリエ(アジアがんフォーラム 代表理事)  
垣添 忠生(日本対がん協会会長)  
坂野 哲平(株式会社アルム CEO)

## 事前告知

- ・UICC日本委員会より、加盟メンバー組織へ告知
- ・47都道府県がん対策課にイベント案内ファクス送信
- ・厚労省記者クラブ、全国メディア、PR TIMESにリリース配布
- ・全国の患者会にメール・ファクス・郵送等で案内
- ・全国のがん診療連携拠点病院相談支援センターにチラシ送付



URL : [worldcancerday-jp.org](http://worldcancerday-jp.org)

WCD2025 特設サイト

## 協賛企業・団体

### 特別協賛



ITMS株式会社



エグザクトサイエンス株式会社



株式会社ファルコバイオシステムズ

### 協賛



# 掲載・報道



配信(YouTube)

## 当日イベント配信の様子



# ワールドキャンサーデー2025に寄せて

栃木県立がんセンター 研究所副所長／病理診断科科长  
尾島 英知

2025年2月4日、栃木県立がんセンターは、国際対がん連合 (UICC) の呼びかけに応じ、「ワールドキャンサーデー」のライトアップキャンペーンに参加しました。栃木県のご協力を得て、栃木県庁昭和館をUICCのシンボルカラーである青とオレンジにライトアップし、がんと向き合う意志を地域に広く発信しました。ライトアップ当日は、通行人が足を止めて見入る姿も見られました。地元紙にも掲載され、がんとともに生きる方々やそのご家族をはじめ、地域の皆さまが“がん”について少しでも意識を向けるきっかけとなればと願っています。

私は2024年に当センターへ赴任し、病理診断科と研究所分子病理分野を一体的に運営する立場で、日常診療と基礎研究に取り組んでいます。赴任前は、国立がん研究センター中央病院と研究所で13年間過ごし、その後、大学で10年間教員を務めてきました。がん研究の総本山である国立がん研究センターでは、著名な研究者の薫陶を受けながらがん研究を行い、がん制圧に対する積極的な姿勢を学びました。大学では、教育と研究に従事する中で、国立がん研究センターで培ったがん制圧のスピリットを後進に伝えてきました。

当センターにおいても、このスピリットを活かしながら、多くの仲間とともにがん制圧に少しでも貢献したいと考え、「橋渡し研究 (トランスレーショナルリサーチ)」を現場で加速させる体制を後押ししています。昨年は、基礎と臨床の橋渡し研究拠点となる分子病理分野の創設、栃木県唯一のキャンサーバイオバンク

の整備、さらに今年8月には、当センター敷地内に、県内外の医療関連企業や大学・研究機関に研究スペースを提供しながら、医療現場と研究者がリアルタイムで連携できる「栃木県立がんセンターリサーチパーク」が開設されました。

研究は、研究者や施設単独では成し得ません。企業やアカデミアの力、そして医療人の総力を結集してがん制圧に取り組む必要があります。このようながん制圧に対する積極的な姿勢は、当施設のミッションである「患者さん一人ひとりに最適な治療の実現」を力強く支えるものと確信しています。

一方で、がんに向き合うのは医療者だけではありません。がん制圧に対する地域社会の関心を高めるための啓発活動も、がん対策には不可欠です。ワールドキャンサーデーが、一人でも多くの方にとって、健診や生活習慣を見直すきっかけとなることを願っています。

私たちが、診療・研究・啓発活動の三位一体で、これからもがんと闘う皆さまを支えてまいります。



## UICCワールドキャンサーデー2025に参加して

埼玉県立がんセンター 病理診断科  
神田 浩明

2025年のワールドキャンサーデーでは埼玉県立がんセンターは例年同様、ライトアップイベントとオンデマンドセッションに参加しました。また、ライトアップイベント開会式に影山病院長からビデオメッセージを送りました。

ライトアップは、埼玉県立がんセンター、埼玉県立小児医療センター、さいたまスタジアム2002の3か所をライトアップしました。昨年までは2か所でしたので、一か所増えました。撮影は埼玉県立小児医療センターとさいたまスタジアム2002はスタッフを本部から派遣していただいたため、埼玉県立がんセンターは自院の撮影のみを担当しました。埼玉県立がんセンターは屋上の看板をライトアップしているため、スマートフォンで撮影すると小さくなってしまいがちでしたが、今年も望遠レンズをつけることを考えていましたが、今年は事務の方がZoomでのズームアップの方法を見つけてくださり、昨年までよりは良い絵柄となりました。開始前は小雪が混じる天気でしたが、開始時には上がって、例年ほど風も強くなく、無事に行うことができました。

オンデマンドセッションは整形外科の五木田茶舞部長が大宮アルディージャで活躍された元プロサッカー選手の塚本泰史さんと「がんを乗り越える運動の力」という題で対談を行い、収録しました。塚本さんは骨肉腫のサバイバーで、対がん活動でもご活躍されています。この対談は現在もYoutubeで見ることができます。

これらの活動は埼玉県立がんセンターのX(旧Twitter)で発信しました。



ライトアップされた埼玉県立がんセンターと撮影スタッフ

## UICCワールドキャンサーデー2025 ライトアップイベントに参加して

新潟県立がんセンター新潟病院 院長  
田中 洋史

2025年2月4日火曜日の18時、新潟でのワールドキャンサーデー点灯式に立ち会いました。新潟では、これまでと同様に新潟市の新潟日報メディアシップのビルを、UICCのシンボルカラーである青とオレンジにライトアップしていただきました。新潟日報社様には、毎年ご理解とご協力をいただいております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

新潟日報メディアシップはJR新潟駅から大通りを日本海に向けて700mほど進んだ繁華街(万代(ばんだい)シティの一角にある20階建てのビルです。江戸時代から明治時代にかけて日本海海運で活躍した北前船の帆をモチーフに緩やかなカーブを描いたデザインになっており、新潟市のシンボリックタワーの一つになっています。最上階の展望フロアからは新潟市内はもとより、昼間は、信濃川が注ぐ日本海、そしてその先の佐渡島までも一望できます。新潟にお越しの際は是非お立ち寄りください。



今回、その“帆”の両端がLEDによって鮮やかにライトアップされました。曇り空でしたが空気は澄んでいて、まさに、美しい“ライトセイル：光の帆布”となりました。この時期、新潟の街頭では、転ばないように、冷えないようにと、どうしても足下に注意しながら背を丸めて歩く姿が多くなってしまっていますが、道行く多くの人が“光の帆”を見上げておられました。“LIGHT UP THE WORLD-United By Unique-未来にひかりをつなぐ”という今回のテーマに相応しい空間となり、私も清々しい希望の光を感じました。

ライブ中継にあたっては、認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト副理事長の林 三枝様をはじめ、スタッフの皆さまにたいへんお世話になりました。ハートリンクワーキングプロジェクト様は、小児がん経験者の方々が、社会とつながりを持ち、働きながら社会へ通用する能力・知識・技術等を習得し、自立した社会生活を営む事ができるように支援していくことを目的として2011年に設立されました。その活動は多岐にわたり、長年にわたって多くの患者さん、そのご家族を支えておられます。当日の現場では、林様、そしてスタッフの皆さんから、私自身、たくさんの笑顔とエネルギーをいただきました。日々のがん診療で、少しでも多くのがん患者さんが笑顔になれるように、UICCのビジョンとミッションを改めて認識し、気持ちを新たにいたしました。

今回のプロジェクトに関わられたすべての関係者の皆さまに重ねて御礼を申し上げますとともに、2026年2月4日の希望の光に思いを馳せております。

# UICCワールドキャンサーデー 2025 記念点灯式 ～岐阜市より～

岐阜大学医学部附属病院  
宮崎 龍彦

UICCワールドキャンサーデーのモットーUnited By Uniqueは、オーダーメイド医療を進める私ども医療関係者にとってとても重要なコンセプトです。これに共感し、岐阜大学では吉田和弘学長の号令のもと、例年通りUICCワールドキャンサーデー記念点灯式に参加しました。岐阜市図書館「みんなの森」ギャラリーにパブリックビューイング会場を設えて点灯式に臨みました。会の趣旨に賛同頂いた岐阜市民病院に今年も共催のかたちでご参加いただき、United By Uniqueのテーマに沿って、地方都市におけるがん診療の挑戦、試みについて会場でポスター展示を行うとともにオンデマンドビデオを放映し、点灯式の時間には生中継に切り替えました。今年ライトアップする岐阜市役所の建物が室内から撮影できる絶妙な場所にパブリックビューイング会場を設えることが出来たお陰で、例年寒い中で震えながら撮影していたのが、極めて快適な撮影環境に変わり、昨年に引き続き岐阜市役所の新庁舎をUICCカラーであるブルーでライトアップし、綺麗なライトアップの映像を届けることが出来ました。



# UICCワールドキャンサーデー2025に参加して

愛知県がんセンター 総長  
丹羽 康正

愛知県がんセンターは、2024年12月に創立60周年を迎えました。本年も「UICCワールドキャンサーデー」に参加し、世界とともにがん克服への歩みを進めることができました。

2025年2月4日のシンボルライトアップは、例年実施している中部電力MIRAI TOWER (旧名古屋テレビ塔) が利用できず、名古屋城にて実施となりました(写真1)。当日は名古屋市からの要請で当センター運用部の若手職員が立会人となり、寒い夜空の下、厳かな雰囲気を出した名古屋城を望むことができました。本部からは「好評であった」とコメントをいただいております、新たな試みとして意義深いものになりました。

オンデマンドセッションでは、乳腺科と就労支援の取り組みを紹介しました。乳腺科からは、2024年5月にがん研究会有明病院より着任した原文堅部長が、乳がん診療の最新情報について解説しました。乳がんは女性で最も多いがんであり、若年女性も罹患することがあります。近年は遺伝子レベルでの診断・治療の進歩が著しく、めざましい発展を遂げています。しかし、SNSなどで誤った情報が拡散され、患者さんが混乱することも少なくありません。当センターで

は、最新のエビデンスに基づく情報提供を行い、患者さんが安心して治療を受けられるよう努めています。

続いて地域医療連携・相談支援センターの野崎由美子ソーシャルワーカーより、就労支援相談について紹介しました。現在、がんの5年生存率は65%を超えており、がんは「治る病気」になりつつあります。それにもかかわらず、診断を受けた直後に不安を抱え仕事を辞めてしまう方も少なくありません。当センターでは、がん相談員による対応に加え、より高い専門性が必要な場合には外部機関と連携し、社会保険労務士やハローワーク、産業保健総合支援センターとともに、就労や両立支援に関する相談を行っています(スライド)。患者さんが病状や体調の変化に応じながらも、社会的支援を得て、安心して治療を続けられる体制を整えています。

UICCワールドキャンサーデーへの参加は、当センターにとって大きな名誉であるとともに、私たちの使命を改めて自覚する機会でもあります。今後も正確で信頼できるがんの診断と治療を提供し、皆さまに納得していただける医療の実現に全力を尽くしてまいります。

## 愛知県がんセンター就労専門相談について

当院では、がん相談員の他、より専門性が高く詳細な対応が必要な場合、外部機関と連携し、3つの専門相談を行っています。当院以外の患者さん等以外の方もご相談いただけます。

	社会保険労務士による就労相談	ハローワークによる就職相談	産業保健総合支援センターによる両立相談
主旨・目的	仕事と治療の両立利用できる社会保険制度について	仕事を探している方への就職先の紹介、失業給付等の制度の相談	仕事と治療の両立相談者と企業の間での介入、調整 ※月1回ミニセミナー開催
相談日	対面相談：月1回 オンライン：随時	対面相談：週1回	対面相談：月1回 オンライン：随時
相談対応者	社会保険労務士	就職支援ナビゲーター	保健師、両立支援促進員、社会保険労務士
開始年月	平成25年10月	平成27年8月	平成29年11月

## World Cancer Day に参加して

佐々木研究所  
梶村 春彦

佐々木研究所は、杏雲堂医院（1882年開院）の庭につくった研究所が始まりと聞いている。3代目の佐々木隆興博士が欧州から帰ってきて、病理のできる若いのをよこせとって一緒に仕事をしたのが吉田富三博士である。吉田富三博士は、東大の病理でも吉田シュレーといわれる多数の弟子を育てたが、その影響力が国内外に広く、長く及んだことは息子さんの著書「癌細胞はこう語った」のなかにも活写されている。病理学会では、一番弟子である故菅野晴夫先生（癌研名誉所長）がその人柄や時代についてかいたモノグラフを何度か配布されているいろいろなエピソードが書いてある。吉田富三博士についてはほかにも評伝があるが、メンターであった佐々木隆興博士については、業績集などが出ているものの、現在流布しているような評伝はわたしが探した範囲ではない、あるいはずっと少ない。

佐々木研究所附属杏雲堂病院（研究所附属の病院という名称なのである）のライトアップされた隅にある銅像は佐々木政吉（2代目；日本人としては東大の内科の最初の教授）で、道をへだてた研究所の脇にあるのが佐々木隆興の銅像である。Webで調べると、欧州留学中にフェンシングをたしなみ、道具一式を持ち帰ったなどがある。1966年にUICCが東京で開催されたとき映像が残っているが、その時には佐々木隆興博士は病身であったらしい。菅野先生ががんの形態について講演をしているところなどがあり、我々の父親が若かったころを代表しているような雰囲気である。

人によっては、自分が成熟あるいは老化していくのにしたがって、世界観、未来観が成熟、老成、場合によっては諦念、消極化していくことがあり（老大国英国をしのんだり）、これは若い世代にとっては迷惑なのではないかと思う。World Cancer Day の質素な飾りつけを見るたびにがんの研究分野の成長期の映像を思い出すが、これは司馬遼太郎が坂の上の雲で日本が若かったころなど書いている時代よりはるかに最近のことなのである。



## 医療格差是正とウェルビーイング推進の新たな一歩へ

一般社団法人アジアがんフォーラム 代表理事  
東京大学大学院総合文化研究科特任准教授  
河原 ノリエ

UICCの新スローガン「United by Unique」に共鳴し、「学際シンポジウム - LOCAL CANCER DAY 2024」（特別協賛：株式会社ヤクルト本社・バイエル薬品株式会社 他）の動画を配信させていただきました。ワールドキャンサーデーの貴重な機会を通じて、がん医療の地域格差や高齢化社会の課題に焦点を当てUICC-AROに共催をいただいたセッションを多くの方にご視聴いただくことが叶い、あらためて、この記念日がもつ力に深く感銘を受けました。

<https://sites.google.com/view/lcd-24/wcd25>

がんは社会のありようを映す鏡です。本シンポジウムでは、前厚生労働大臣・武見敬三氏、UICCH本委員会委員長・野田哲生氏、国立がん研究センター理事長・中釜齊氏などに登壇いただき、「進歩」や「発展」とは異なる視点からWell-beingの本質を考察し、持続可能な社会のあり方について討議が行われました。



本シンポジウムは、2021年よりアジアがんフォーラムがトヨタ財団の国際助成プログラムを受けて開始した「日本と中国の地域コミュニティにおける誰ひとり取り残さないがんと暮らしを問い直す学びあいの構想と実践」の発表の場でもありました。

また、UICC会長が来日されたことをきっかけに、2022年に発表された「富山宣言」をさらに深化させ、自然や風土に根差した「生老病死」の視点を共有しました。このアプローチは単なる地方創生にとどまらず、アジア全域に広がる可能性を示唆しています。医療技術の進歩だけでなく、人間の尊厳をどのように守り、地域に根ざした支援を展開するか。大学の知見と企業・行政の実践が融合することが当法人が続けてきた「LOCAL CANCER DAY」の大きな特徴であり、今後も地域社会全体を巻き込んだアジア全体の学びのネットワークを築くことで、より包括的かつ持続可能なウェルビーイング向上を模索していきたいとおもいます。



## ワールドキャンサーデーに参加して

一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会 誘客推進グループ  
高原 透

飛騨高山(岐阜県高山市)は、江戸時代に高山藩の城下町、その後幕府直轄地として発展し、商人や職人の町として栄え、現在もその面影を残す美しい町並みが特徴です。出格子の商家や造り酒屋が軒を連ね、地酒の試飲や、飛騨牛の串焼き、みたらし団子なども味わえます。市街地から足を延ばせば、奥飛騨温泉郷には湯量豊富な温泉や、標高2,000mを超える雲上の世界を楽しめる新穂高ロープウェイがあります。また、標高3,000m級の山々が連なる日本を代表する中部山岳国立公園もあり厳しくも美しい飛騨山脈(北アルプス)の登山も楽しめます。

こうした飛騨高山へは国内外から年間約470万人の観光客にお越しいただき、四季を通じて、歴史文化、大自然、温泉、食などお楽しみいただいております。

そうした中、ワールドキャンサーデーへの参加のお話をいただき、恥ずかしながら当該活動を知りませんでした。直接、主旨や活動内容を伺い、また、HPなども拝見し、「毎年2月4日が世界中でがんと向き合う日として制定されており、いくつもの事業の一つとしてシンボルカラーである青やオレンジでライトアップする」とありました。

私自身、がんを経験した家族はいませんが、ワールドキャンサーデーへの参加を通じて、この特別な日、夜空を彩る希望の光に込められて多くの方の思いを肌で感じたいと思い、ちょうど当協会では春夏秋冬の一定の期間、中橋周辺のタイトアップ事業を実施していましたので内部で協議し参加させていただくことになりました。

当日は、雪が降り、寒さ厳しい夜でしたが、暗くなるにつれ、古い町並近くを流れる宮川に架かる中橋周辺が白色やオレンジ色で幻想的に彩りはじめました。正式なシンボルカラーではありませんが、光を見つめていると「がんは一人で向き合う病ではなく社会全体で支え合うべきもの」だと強く感じました。

ワールドキャンサーデーに参加させていただいたことで、観光客のための光の演出だけではなく、光に込められた深い意味を感じられた体験は、がんが誰にとっても恐れる病気ではなくなるようその願いを込めて、この経験を胸に当協会はこれからもライトアップ事業が、がん支援の輪を広げるきっかけになることを願っています。微力ながらも引き続きこの活動を支援してまいります。



## World Cancer Congress参加報告

一般社団法人アジアがんフォーラム理事  
坂野 哲平

2024年9月17日～19日にジュネーブで開催されたWorld Cancer Congress (WCC) の参加報告をさせていただきます。UICC-AROとECHOでの共同セッションであるGlobal oncology via telehealth: merging clinician interconnectivity with systematic reinforcement に登壇しました。ECHOが展開する多職種による学習ネットワークの重要性や、アジアやアフリカのがん医療における多様な医療環境における革新的技術の統合について議論を深め、ECHOのDr. Sanjeev Aroraらとも非常に貴重な意見交換ができました。

今回のWCCは、22か国から約2,000人が参加しました。世界情勢の危機の中、がん医療の格差は拡大の一途をたどっており、いかにして、遠隔医療・遠隔指導ネットワーク・AIの力を活用し、がん医療提供を強化し、深刻な世界的癌負担への対応を目指せるかという議論は、多くの参加者の共感をいただきました。

特に日本国内のUICC関連の病院施設の協力により私共が取り組んでいるウクライナの医師研修については大きな関心を集めました。UICCはウクライナ支援には、戦争勃発時から、いち早く国際支援の呼

びかけをしてきたこともあり、ウクライナの状況については当事者意識をもって聞いてくれていました。世界中から多くの医療支援が集まる中で負傷兵の治療現場での混乱による多剤耐性菌 (AMR) の温床となっている問題は、欧州では既に危機意識を持って捉えられています。

2050年までに年間1,000万人が死亡する可能性があるAMRは、癌治療現場にも大きな影響を及ぼしており、UICCの重要課題とされてきました。行動変容への視点が不可欠ですが、既存の対策は疫学調査による監視が中心であり、臨床現場を支援する枠組みは限定的でした。そこで、これまで培った「生成AI」技術を生かし、疫学調査結果から抗生物質の適正使用まで包括的な診療支援に繋がるCartaNova AMR DXを開発し、ウクライナへの導入を皮切りにグローバルに提供を開始しようと考えています。今回のWCC参加は、UICCというグローバルな場において、今後UICCのメンバーとして取り組むべき課題についてクリアになった貴重な経験でした。誰もが安心して医療を受けられる未来を実現するために、技術と社会実装の両面から、UICC活動に今後関わっていききたいという決意を新たにしています。



## UICC 日本委員会加盟組織

愛知県がんセンター	(一社) アジアがんフォーラム	大阪国際がんセンター
神奈川県立がんセンター	がん・感染症センター都立駒込病院	(公財) がん研究会
(公財) がん研究振興財団	(公財) がん集学的治療研究財団	九州がんセンター
国立がん研究センター	埼玉県立がんセンター	(公財) 佐々木研究所
(公財) 札幌がんセミナー	静岡県立静岡がんセンター	(一社) 全国がん患者団体連合会
(公財) 高松宮妃癌研究基金	千葉県がんセンター	東京慈恵会医科大学
栃木県立がんセンター	新潟県立がんセンター	(一社) 日本癌学会
(一社) 日本癌治療学会	(公財) 日本対がん協会	(一社) 日本乳癌学会
(特非) 日本肺癌学会	(公社) 日本婦人科腫瘍学会	東札幌病院
(公財) 北海道対がん協会	三重大学医学部附属病院	宮城県がんセンター

賛助会員 協和キリン株式会社(山極-吉田国際奨学金)  
(公社) 日本放射線腫瘍学会

## UICC日本委員会 2025年役員

委員長	野田 哲生 (がん研究会)	UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)	野田 哲生 (がん研究会)
幹事		UICC 本部	
総務	中釜 齊 (日本医療研究開発機構)	Fellowship 委員	中釜 齊 (日本医療研究開発機構)
学術	垣添 忠生 (日本対がん協会)	TNM 委員	浅村 尚生 (東京曳舟病院)
財務	吉田 和弘 (岐阜大学)	名誉会員	
ARO担当	野田 哲生 (がん研究会)	青木 國雄 (元愛知県がんセンター)	
予防・疫学領域担当	松尾恵太郎 (愛知県がんセンター)	富永 祐民 (元愛知県がんセンター)	
事務局担当		大島 明 (元大阪府立成人病センター)	
監事	増井 徹 (青山学院大学)	北川 知行 (がん研究会)	
	池田 徳彦 (東京医科大学)	田島 和雄 (元愛知県がんセンター)	
専門委員会委員長		浜島 信之 (元名古屋大学)	
疫学予防委員会	松尾恵太郎 (愛知県がんセンター)	日本委員会事務局 (がん研究会内)	
喫煙対策委員会	望月友美子 (新町クリニック)	神田 浩明 (研究: 幹事会担当)	(埼玉県立がんセンター)
患者支援委員会	吉野 孝之 (国立がん研究センター東病院)	関本 敏之 (事務: 委員長業務補佐)	
TNM委員会	佐野 武 (がん研究会有明病院)		
広報委員会	河原ノリエ (アジアがんフォーラム)		
小児がん委員会	中川原 章 (椎原寿恵会)		
対がん協会	石田 一郎 (日本対がん協会)		

2026年度のUICC日本委員会総会は  
7月25日(土) 12:00 ~ 14:30 経団連会館  
(Web開催の場合 13:00 ~ 予定)

UICCホームページ : [www.uicc.org](http://www.uicc.org)  
UICC日本委員会ホームページ : [www.jfcr.or.jp/UICC](http://www.jfcr.or.jp/UICC)  
UICC-AROホームページ : <http://uicc-aro.org/>